

令和5年度

グループホーム長寿の家 事業報告

【令和5年度重点目標】

1. 多様化するニーズへ対応できる職員のスキルアップ
2. 職員の意識改革と知識・技術の向上
3. 地域参画の在り方を再構築する。

【運営実績】

1. 多様化するニーズへ対応できる職員のスキルアップ
 - ① 入居者のADL維持・向上や、認知症状におけるBPSDの特性を理解することで、安全・安心な支援を行います
→施設内で認知症の方への対応について研修を行ったり、会議にて、入居者様の行動や身体・精神状態等について、職員間で意見の交換・情報共有を行い、安全・安心な支援を行うことが出来ました。
 - ② 地域や社会から期待されている役割を理解し、多面的に対応できる職員を育成するため、情報収集・知識の習得や施設からの発信を積極的に行うことで活躍できる場を広げます
→職員が、認知症の方に限らず、幅広い方への対応ができるよう、必要な知識・技術の習得のため、様々な研修を行い、その内容についても、地域の方々が参加される運営推進会議にて発信を行っています。
 - ③ ご家族や入居者への接遇の向上及び職場におけるビジネスマナーの向上を意識することで、職員個々のスキルアップに努めます
→接遇やマナーについての研修を実施し、会議や日頃の申し送り等で意識づけするよう働きかけ、スキルアップに努めることが出来ました。
 - ④ 入居者のADL向上に伴い、ニーズの変化に対応できる体制を確保します
→毎月、各フロアの会議にて、入居者様の身体・精神状態等について話し合い、プランの内容やケア方法の見直しを行うことが出来ました。

2. 業務改善と情報収集及び発信

- ① 利用者のADL維持・向上や、認知症における行動と心理症状の特性を理解することで、心のこもった支援を行います
→入居者様の身体・精神状態や認知症状を理解し、声かけやケアの仕方に配慮し、支援を行うことが出来ました。
- ② 目的意識を持ち、根拠に基づいたケアを提供します
→入居者様の行動には、意味があることと考え、寄り添うケアを意識し、対応することが出来ました。
- ③ 業務の効率化(事務作業)を常に考えると共に、より専門性のある技術と情報発信をすることでご家族および地域の方から信頼される施設づくりを行う
→業務内容やケア方法について、会議や通常の申し送りにて話し合い、入居者様に関係することについては都度、ご家族へ情報発信することが出来ました。

3. 開かれた施設を目指した地域参画

- ① 感染症に最大限の対策をしながらも、地域の人々と共有し、誰もが専門性の高い知識を持った職員と相談が出来る場として、施設の役割を果たします
→感染対策や対応方法などの研修を行い、職員へは感染予防を常に意識するよう促し、外部からの施設見学や面会の方へは、体温や体調確認等を行い、施設内へ入っていただくことを徹底しました。
- ② 感染対策禍においても積極的に情報を発信することで、認知症への理解を深め、利用者が社会との繋がりを感じ続けることができる関係の維持に努めます
→感染対策を行いながら、近隣への買い物やご家族との外出、散歩等を行うことで、外部・社会との繋がりを感じていただく事が出来ました。
- ③ 施設の特徴を明確化し、社会情勢を考慮した効果的な情報発信に努めます
→運営推進会議や日頃の電話等で、現状の空き状況や待機者情報を関係各所へ発信することが出来ました。